

科目名称	看護管理	学年学期	単位数	時間数
		3 学年前期	1	30
担当教員	永井さつき	授業に関わる 実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (看護師) <input type="checkbox"/> 無	

【1】 授業概要

看護管理といえば病院の看護師長など、管理者になる人が学ぶものという理解が多かった。現在の看護管理は、「看護職が看護サービスの対象者によりよい看護を提供することを目指して行う一連の活動である」といわれ、看護管理者だけでなく、ケアを提供しているすべての看護職に必要な知識・技術として理解されている。本授業では、看護職一人ひとりが対象者に責任をもってケアを提供するために必要となる「看護ケアのマネジメント」と、組織の目標を達成するために、組織の管理者として、多岐にわたる職種・職場・就業形態において、看護サービスをよりよく円滑に行うためのしくみづくりに必要となる「看護サービスのマネジメント」、および、質の高い看護の提供をするために専門職としての自立・自律をするうえで必要となる「看護職としてのセルフマネジメント」を学び、看護におけるマネジメントの基本について理解する。

【2】 学習目標

1. 看護管理学の概念、マネジメントの考え方の変遷と看護におけるマネジメントの考え方の変遷を理解する。
2. 看護職が対象者に責任をもってケアを提供するために必要となる「看護ケアのマネジメント」について理解する。
3. 自立・自律した看護職として仕事を進めていく際に必要となる「看護職としてのセルフマネジメント」について理解する。
4. 組織の管理者として、組織の目標達成のために必要となる「看護サービスのマネジメント」について理解する。
5. 一般的なマネジメントに必要な知識・技術、看護と看護を取り巻く法的整備・諸制度について理解する。

【3】 第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- 2. 人間の生命、人間としての尊厳および権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心をもち、主体的に学び続けることができる。

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	看護におけるマネジメント	講義
2	看護ケアのマネジメント	講義
3		
4	看護職としてのセルフマネジメント	講義
5	マネジメントに必要な知識と技術	講義
6	看護を取り巻く諸制度	
7	組織の調整: 課題学習 (SWOT分析)	演習
8		
9	看護サービスのマネジメント	講義
10		
11	看護サービスのマネジメント	講義
12		
13	看護サービスのマネジメント	講義
14		
15	試験・まとめ	

【5】 評価方法

学科試験 70%、課題学習 30% (参加態度 10%含)

【6】 教科書

上泉和子: 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 1 看護管理 (第 11 版) 医学書院 2026 (電子版)

【7】 参考書

日本看護協会編: 「看護に活かす基準・指針・ガイドライン集 2023」、2023.12.

原玲子: 学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門第 2 版、2020.8.17、日本看護協会出版会

【8】受講生へのメッセージ

講義の内容により、担当講師が変わります。本授業は、3 学年の各領域で受け持ち患者の看護の際、また、後期の統合実習でも活用する内容です。特に、統合実習と連動するため、本授業に加え、統合実習ガイダンスや臨地実習をおして学びを深めましょう。